

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL.025-234-6781~6783



畜産女性ネットワーク交流会

(関連記事 6 ページ)

目次

- ◆平成25年度臨時総会を開催 ……………(2)
- ◆平成26年度事業計画と収支予算の概要 ……………(2)
- ◆平成26年度事務局体制について ……………(3)
- ◆平成25年度畜産経営指導実施結果 ……………(4)
- ◆豚流行性下痢 (PED) から豚を守りましょう! ……(5)
- ◆優秀畜産表彰会、畜産経営改善セミナーを開催…(5)
- ◆畜産女性ネットワーク交流会を開催 ……………(6)
- ◆畜産安心ブランド生産農場交流会を開催
～新たに13農場に認定証を交付～ ……………(6)
- ◆声のコーナー ……………(7)
- ◆「楽しいメンバーとともに」
酪農：糸魚川市 園田 道子
「大好きな養豚業で私がすべきこと」
養豚：十日町市 池田 貴子
- ◆畜産安心ブランド生産農場だより ……………(8)
新潟市西蒲区：新潟県農業大学校
- ◆畜産物市況 ……………(8)
- ◆編集後記 ……………(8)

平成25年度臨時総会を開催

平成25年度臨時総会を新潟市西区の「全農にいがた県本部ビル」において3月24日に開催しました。

出席会員数

正会員65名中、本人出席25名、書面出席40名の出席により、平成25年度臨時総会が成立

会長挨拶

出席会員と来賓に謝意

配合飼料価格の高止まり等畜産情勢が厳しい中、畜産経営安定対策事業等の的確な実施により公益社団法人としての責務を果たすべく挨拶

新潟県農林水産部参事祝辞

本県の畜産業を魅力ある産業として育てていくため「にいがた和牛」のブランド力強化や酪農後継者の育成支援、畜産物の安全・安心の確保に向けた取り組み等を重点的に実施し、引き続き本県の畜産振興に尽力する旨祝辞

議事録署名人の選任

議事録署名人2名（新潟県農業信用基金協会専務理事、一般社団法人新潟県配合飼料価格安定基金協会常務理事）を選任した。

提出議案

第1号議案 平成26年度事業計画及び収支予算、資金調達及び設備投資の見込みについて

第2号議案 平成26年度会費について

第3号議案 平成26年度借入金の最高限度額及び借入先の決定について

第4号議案 役員報酬の決定について

附帯決議

阿部専務理事が4議案の内容と附帯決議について説明し、全員の賛成により、原案どおり承認

平成26年度事業計画と収支予算の概要

平成25年度臨時総会で決定した平成26年度の事業計画と収支予算の概要は次のとおりです。

1 基本方針

配合飼料価格の高止まりにより畜産経営体を取り巻く情勢が厳しいことから、当協会は、消費者が求める安全で安心な県産畜産物の安定供給を推進するため、農林水産省及び（独）農畜産業振興機構が実施する補助事業実施主体の公募に参加し、生産から消費に至る公益性の高い事業に積極的に取り組みます。

なお、国等の補助・受託事業費の減少により事務費が削減され、厳しい協会運営が続いていることから、「財政健全化対策」（平成24年12月17日理事会承認）にそって、国、県及び中央団体の指導のもと、会員、関係機関及び関係団体と連携して、効率的かつ円滑な事業実施に努めます。

○ 当初予算総額（一般正味財産）

収入額（経常収益）	支出額（経常費用）	当期一般正味財産増減額
365,957千円	366,868千円	△911千円

2 主な実施事業

公益目的事業

(1) 公益目的事業1（補填）

畜産物の価格変動により生ずる畜産経営体の損失を補填する事業

肉用子牛生産者補給金制度、肉用牛肥育経営安定特別対策事業及び関連する助成対策事業を適切に実施します。

○ 補填金等交付計画額

事業名	交付計画額
肉用子牛生産者補給金制度	64,000千円
肉用牛繁殖経営支援事業	6,000千円
肉用牛肥育経営安定特別対策事業	213,220千円
合計	283,220千円

(2) 公益目的事業2（指導）

畜産経営体に対する経営及び技術の改善指導等を実施する事業

畜産経営体の生産性及び所得の向上を図るため、畜産経営技術高度化推進事業を中心に各種の経営改善指導を実施します。

○ 指導実施計画戸数

事業名	指導計画戸数
畜産経営技術高度化推進事業	24戸
畜産特別資金等推進指導事業	3戸

(3) 公益目的事業3 (助成)

高能力家畜、器具・器材等の導入及び家畜防疫を徹底するための経費に対して助成を行う事業

- ア 肉用牛繁殖基盤強化を目的として、肉用牛経営安定対策補完事業を実施します。
- イ 家畜疾病の清浄化や飼養衛生管理の強化に向けた取り組みを支援するため、家畜生産農場清浄化支援対策事業、死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業及び関連する衛生対策事業を実施します。

(4) 公益目的事業4 (認定)

衛生管理基準を充足した畜産経営体を認定する事業

食の安全・安心を求める消費者ニーズに対応して、HACCPの考え方に基づく衛生管理手法を取り入れた「畜産安心ブランド生産農場」の認定を推進します。

○ 認定計画戸数

畜種	乳用牛	肉用牛	合計
認定農場数	10戸	10戸	20戸

その他事業

(1) 県産和牛のブランド化を推進する「にいがた和牛推進協議会」事務局を運営する事業

「にいがた和牛」の流通・販売対策等を積極的に展開し、一層のブランド力強化に向けた取り組みを実施します。

(2) 畜産物の消費拡大を図る事業

消費者を対象としたセミナーの開催等、畜産業や畜産物に対する県民の理解増進に努めます。

(3) 緊急事態発生時に畜産経営体、団体に助成金を交付する事業

伝染病の発生又は災害発生時に畜産経営体等に対する緊急対策を実施します。

平成26年度事務局体制について

当協会の平成26年度事務局体制は次のとおりです。

1 4課体制から3課体制への移行

支援業務課と価格安定課を統合し業務課を新設しました。

平成25年度	平成26年度
【4課】 総務課 支援業務課 価格安定課 衛生指導課	【3課】 総務課 業務課 衛生指導課

2 業務課の業務内容

これまで、支援業務課、価格安定課で実施してきた業務につきましては、全て業務課が引き継いで実施します。

3 職員の異動

次のとおり、2名が3月末で退職し、新たに1名を採用しました。各課の人員体制は下表のとおりですので、これまで同様、よろしくお願ひします。

【退職：平成26年3月31日付け】

価格安定課長 古田島敏晴

衛生指導課長 鍋谷 政広

【採用：平成26年4月1日付け】

衛生指導課長 中林 大

平成26年度人員体制

課名	職名	課員
総務課	事務局長兼課長	佐藤 栄治
	書記	鈴木奈美子
	事務補助員	関 朋子
業務課	事務局参与兼課長	鈴木 哲也
	係長	谷川 昌行
	技師	荒井 紫織
	事務補助員	木滑 亮子
	事務補助員	中山 美里
衛生指導課	課長	中林 大
	事務補助員(兼務)	関 朋子

平成25年度畜産経営指導実施結果

平成25年度のコンサルは、十分な調査と対策検討ができる「総合指導」に特化して、酪農経営8戸、和牛繁殖経営3戸、和牛肥育経営7戸、養豚経営6戸の指導を実施しました。

今回、技術及び経営レベルの平均を指標値（平成19年度作成）と比較し、今後改善が必要な課題項目を明確化しました。

【酪農経営】

～適期の人工授精、徹底した衛生対策を～

受胎に要する種付回数、平均分娩間隔の低迷は、分娩後の初回種付での受胎率が低いことが主な原因となっているので、観察の徹底による適期の人工授精が必要です。

また、繁殖成績の低迷から、若齢の経産牛を廃用・淘汰する事例が見られるので、繁殖技術レベルを高め、長期連産を図る必要があります。

経産牛1頭年間乳量は、指標値を達成した経営が2戸と少数であり、乳量向上及び乳質改善対策として、分娩間隔の短縮、乳房炎の発生防止が挙げられるので、徹底した衛生対策が必要です。

所得率は、指標値を達成した経営は2戸のみであり、主な原因として、経産牛1頭年間乳量の低迷など生産性がまだ低いこと、飼料価格の高止まりなどが挙げられます。

(集計戸数：8戸)

区 分	単 位	25年度	指 標 値
平 均 産 歴	産	2.8	3.5 以上
受胎に要する種付回数	回	2.8	2.0 以内
平 均 分 娩 間 隔	ヵ月	15.8	13.5 以内
経産牛1頭年間乳量	kg	8,779	9,300 以上
平 均 体 細 胞 数	千個	302	160 以下
所 得 率	%	12.2	20 以上

【和牛繁殖経営】

～飼養環境の改善、飼料給与体系の見直しを～

分娩間隔12ヵ月以内を達成した経営はなく、また、子牛の日齢体重が指標値を達成した経営も雄の1戸のみであるため、繁殖牛・子牛ともに、飼養環境の改善・向上や適切な疾病対策、飼料給与体系の見直しなどを実施し、分娩間隔の短縮、子牛の日齢体重の向上を図ることが必要です。

(集計戸数：3戸)

区 分	単 位	25年度	指 標 値
雌子牛1頭当り販売価格	円	414,940	—
雄子牛1頭当り販売価格	円	498,984	—
平 均 分 娩 間 隔	ヵ月	13.2	12.0 以下
子 牛 事 故 率	%	4.0	3.0 以下
雌子牛日齢体重	kg	0.94	0.96 以上
雄子牛日齢体重	kg	1.03	1.07 以上
所 得 率	%	26.9	35 以上

【和牛肥育経営】

～飼養管理の改善、衛生管理の徹底を～

1日当たり増体量が概ね指標値並の成績となっていました。ただし、指標値以下の経営が3戸、事故率は4戸が指標値以下であるため、飼養管理の改善、衛生管理の徹底が必要です。

(集計戸数：7戸)

区 分	単 位	25年度	指 標 値
枝肉1kg当り販売価格	円	2,126	—
枝肉1kg当り素牛費	円	855	—
去勢牛1日当り増体量	kg	0.79	0.78 以上
枝肉格付4等級以上率	%	71.9	70.0 以上
事 故 率	%	1.7	2.0 以下

【養豚経営】

～授乳期の母豚と子豚の飼養管理の強化を～

離乳時育成率は指標値を達成した経営は2戸のみで、哺乳子豚の下痢防止や保温対策、圧死対策が必要です。

離乳から受胎平均日数の指標値を達成した経営はなく、授乳期の母豚の栄養不足などにより、離乳後の発情再起が遅れていることが主因でした。

1日当り増体量、肉豚事故率の改善には、密飼の解消によるストレス防止及び呼吸器疾病対策が必要です。

(集計戸数：6戸)

区 分	単 位	25年度	指 標 値
離 乳 時 育 成 率	%	86.4	90 以上
離乳から受胎平均日数	日	23.2	12 以内
1 日 当 り 増 体 量	g	637	670 以上
肉 豚 事 故 率	%	8.5	3 以下

豚流行性下痢 (PED) から豚を守りましょう！

昨年10月、国内で7年ぶりにPEDの発生が確認されて以来、全国各地に広がり、多くの被害が報告されています。

4月に入り、県内でもPEDの発生が確認され、感染拡大が懸念されます。

農場の衛生管理や消毒の徹底などを実施し、自らの手で豚を守りましょう。

症 状

- ・食欲不振、水様性下痢、嘔吐
- ・幼齢豚ほど症状が重く、死亡率も高い

疫 学

豚の導入や出荷後4～5日で起こることが多いとされ、豚、車両、衣類及び履物などを介して持ち込まれ、経口感染すると考えられている。

対 策

- ・農場への侵入防止：車両、人、豚の出入りの管理を強化
- ・農場内での蔓延防止：分娩舎の管理と作業動線を分離
- ・ワクチン接種

異常が確認された場合は、直ちに家畜保健衛生所に通報

優秀畜産表彰会、畜産経営改善セミナーを開催

2月7日、全農にいがた県本部ビルで、生産コストの低減と多様な畜産経営基盤の強化を図り、経営の維持・発展に資することを目的として、平成25年度優秀畜産経営表彰会（主催：畜産協会、後援：新潟県、JA全農にいがた、新潟県酪連）並びに平成25年度畜産経営改善セミナー（主催：畜産協会）を開催しました。

優秀畜産経営表彰会では、酪農経営の桑原茂氏（津南町）に畜産協会長賞、県知事賞、全農県本部長賞、県酪連会長賞が授与されました。桑原氏はこまめな敷料交換による乳房炎の予防、牛群検定を活用した高能力牛の選抜・保留による高乳量の維持、また、耕畜連携による安価な敷料の確保、飼料用トウモロコシの栽培による飼料費の低減を実践し、少頭数ながらも安定した所得を確保していることが評価されました。

なお、桑原茂氏の経営概況等を当協会のホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

畜産経営改善セミナーでは、國學院大學兼任講師の神山安雄氏が、「畜産現場の課題とこれから伸びる経営」と題し、統計データや全国の事例を紹介して、畜産経営の課題とその対応策について講演を行いました。

参加者からのアンケートでは、特にセミナーの事例紹介が好評であり、81%の方々から「参考になった」との回答をいただきました。



優秀畜産経営表彰会 賞状授与の様子（左：桑原氏）

畜産女性ネットワーク交流会を開催

1月24日、新潟市食育・花育センターを会場に、新潟県畜産振興協議会との共催により、平成25年度畜産女性ネットワーク交流会を開催しました。

本年度は「女子力による経営の魅力アップ」をテーマとし、畜産経営に携わっている女性のほか、水稲、野菜生産者や関係機関担当者等、93名もの参加者があり、講師や事例発表者との交流を行うことができました。

最初に、講師であるMAX・ZEN performance consultants代表取締役の丸山結香さんが「今こそ、経営に女子力を活かす！～魅力ある商品づくりのために出来ること～」と題し、女子の経営参画の必要性、魅力ある商品づくりに欠かせないこと、マーケティングリサーチや異業種交流の重要性について講演しました。

続いて、六次産業化に取り組んでいる次の3名の女性生産者が起業のきっかけ、女性としての役割分担、起業後に苦労したことや良かったこと等について紹介があり、意見交換を行いました。

最後に、3名の生産者が商品化しているジェラート（ケーエスファーム）、プリン（鎌田養鶏）、エディブルフラワー（脇坂園芸）を参加者に試食していただき、感想を頂戴するなど有意義な交流会となりました。

【事例発表者】

（酪農経営）

有限会社 ケーエスファーム 加勢 アヤ子氏

（養鶏経営）

鎌田養鶏株式会社 立川 有佳氏

（花卉経営）

株式会社脇坂園芸 脇坂 よしみ氏



講師・事例発表者との意見交換

畜産安心ブランド生産農場交流会を開催 ～ 新たに13農場に認定証を交付～

2月25日、全農にいがた県本部ビルにおいて、認定農場、認定委員会委員、関係機関・団体等50名に出席いただき、平成25年度の畜産安心ブランド生産農場交流会を開催しました。

最初に、畜産安心ブランド認定委員会の楠原征治委員長から、平成25年度に認定申請のあった乳用牛5、肉用牛4、豚2、採卵鶏1、肉用鶏1、計13農場については、全ての農場が認定基準に適合して認定を決定したこと及びこれらの農場の多くでは、若い後継者ががんばっている姿が見られて、これからの発展が期待できるとの審査講評がありました。

今井会長に代わって阿部専務理事から各農場に認定証が手渡された後、認定農場の代表として萬羽博文さんが「今後一層、安全・安心な畜産物の提供に努める」旨の心強い決意表明を行いました。

続いて、交流会に移り、十日町地域広域事務組合家畜指導診療所の山口明所長から「地域畜産にとっての安心ブランド認証と農場HACCP化の価値について」と題する講演があり、「本県の認定制度や農場HACCPへの取組により生産効率の向上が期待されるが、それ以上に安全な生産物への誇りが、地域の仲間や後継者を活性化して夢の繋がる畜産地域への可能性が開かれる。」と強調されました。

畜産安心ブランド生産農場認定事業は、事業期間を延長して継続されますので、関係者の皆様の取組をよろしくお願いいたします。

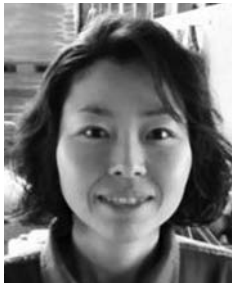
認定農場数と認定率

畜種	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	合計
農場数	63	76	57	23	20	239
(%)	(27)	(59)	(48)	(64)	(87)	(44)

(平成26年3月末現在)



認定証交付式



酪農

糸魚川市谷根 角坂牧場
園田 道子



養豚

十日町市野口(南)花田養豚場
池田 貴子



『楽しいメンバーとともに』

まず、角坂（かくさか）牧場のメンバーを紹介します。

見た目はちょっとコワイけど、お酒と美人が大好き、冗談で場を和ませる『お義父さん』

ネコやイヌと会話ができる（？）、カラオケ&韓流ドラマが大好き『お義母さん』

ラーメン大好き、おもしろくて、と〜っててもやさしい『夫』（笑）

牧場に勤めて4年目、給餌のプロフェッショナル、気が利く従業員の『大輔』

いつの間にか首輪を付けて、餌や牛乳をもらってなついている『野良猫（？）たち』

最近、少しずつ親離れしつつある中高生の『娘二人』（泣）

そして、優しい二児の母、嫁いで15年目のさわやかな笑顔が自慢（笑）の『私』です。

当牧場は、現在約60頭の乳牛を飼養しています。昨年には畜産安心ブランドのクリーンミルク生産農場に認定されました。

嫁いで間もないころは、慣れない仕事に戸惑い、失敗ばかりで悔し涙を流したこともありましたが、子供のころから動物が好きだったこともあり、牛と触れ合うことで心を癒されることが多々ありました。

今の私の担当は、主に搾乳と簿記です。あとは牛舎に来た人の心が和めばいいなどの思いから、牛舎の周りに花を植えています。もっともっとたくさん花を植えて、花いっぱい牛舎にしたいと思っています。【※お義父さん、大好きな除草剤は控えてください（笑）】

また、酪農以外では、夫と二人で堆肥をたくさん使って無農薬で野菜を作ったり、山で山菜を採って直売所や地元のスーパーで販売したりしています。やっぱり採れたての野菜・山菜の味は最高です！！

私は、この仕事をとおして、少しでも多くの人に命の大切さ、自然や農業に興味を持ってもらえればいいなと思っています。

まだまだ勉強不足ですが、家族と協力し、健康で楽しく、感謝の気持ちと笑顔を忘れずに努力していきたいです。

『大好きな養豚業で私がすべきこと』

私が養豚業に就いて、もうすぐ4年になります。母豚250頭の一貫経営の会社で、入社当初から分娩舎の管理を担当しています。元々、無類の動物好きなので、縁あってこの仕事にたどり着いたのは、今思えばとても自然な流れだったように感じます。

私が分娩舎で行う仕事は、給餌、分娩介助、分娩柵の洗浄などがあります。それらは全て分娩舎担当の一番重要な目標である「離乳頭数の増加」のために行う作業ですが、残念ながら私の入社以来、離乳成績が若干下がってしまいました。上司に相談したり、地域の成績優秀な同業者の話を伺ったり、勉強会に参加したりと飼養管理についての知識は徐々に増えてきているはずなのに、それが自分の担当する部署の成績につながらないことはとても悔しく、また会社にも申し訳ないと思っています。やはり、生き物を扱うということは難しく、思いどおりにはいかない痛感させられます。

毎日がとても忙しく、ただ日常の仕事をこなすだけで精一杯でしたが、最近、新しい従業員が入社し、人手が増えたおかげで時間的な余裕が多少持てるようになりました。今までやるべきことだと分かっていても時間がなくてできなかった作業にも着手できるようになり、豚の観察も入念にできるようになりました。以前と違った角度から豚を観察することで、成績向上につながるような新しい発見ができればいいなと思います。

私が就農してからの数年間で、飼料価格の高騰、豚インフル、口蹄疫といった養豚業界に打撃となる大きなマイナス要因が立て続けに発生してしまいました。このような困難な状況で私がすべきことは、とにかく1頭でも多くの子豚を離乳させ、農場全体の生産性を上げること、これに尽きると思います。

最後に、私達人間に糧を与えてくれる豚達の出荷までの約6ヶ月という短い生涯に、できる限り彼らにとって快適でストレスの少ない環境を供与できるよう努めたいと思っています。

畜産安心ブランド生産農場だより

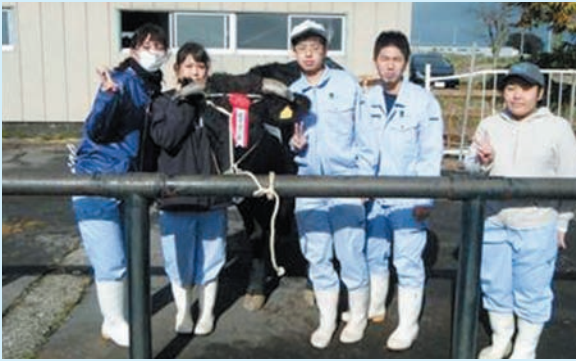
新潟市西蒲区：新潟県農業大学校

新潟県農業大学校の畜産経営科の学生は、酪農専攻と肉畜専攻に分かれ、高い品質で安全・安心な牛乳・牛肉を生産するため、乳用牛・肉用牛の飼養管理と経営管理技術を学んでいます。肉用牛を飼養する肉畜専攻の学生数は、1・2年生各3名の計6名です。

クリーンビーフ生産農場の認定は平成22年度に受け、毎年秋には学生が生産した牛肉を農大祭で、学生自身が販売し好評を得ています。また、平成25年度には第23回肉用牛共進会に、学生が丹精込めて飼養した黒毛和種去勢肥育牛を1頭出品しました。その結果、優秀賞を受賞し表彰されました。これは毎日、学生が一生懸命に牛の飼養管理に努めた成果と思います。

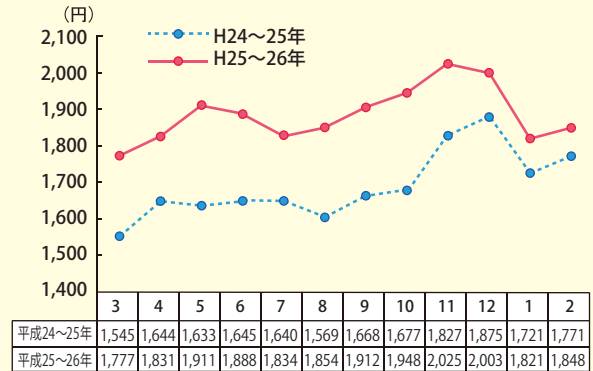
畜産の世界は、厳しい状況が続いています。しかし、やりがいのある素晴らしい仕事の一つです。農業大学校には、将来の新潟県の畜産を支え、発展するために一生懸命な若者がいることを知ってもらえたらと思います。

今後とも、新潟県農業大学校へのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

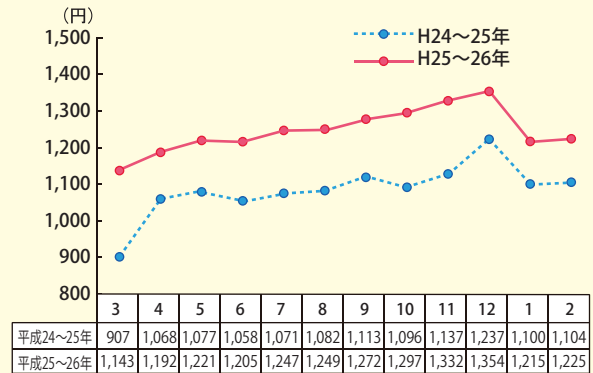


畜産物市況

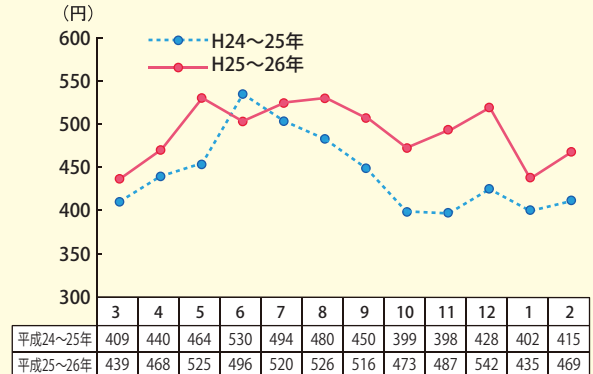
牛枝肉相場・和牛去勢A-4(東京市場)



牛枝肉相場・交雑種去勢B-3(東京市場)



豚枝肉相場・上(東京市場)



編集後記

「春眠暁を覚えず」春になるとよく聞く言葉です。春の夜は心地よいので、朝になったことにも気づかず眠り込んでしまうという意味ですが、私は季節を問わず暁を覚えないため、年中、目覚ましアラームと格闘の日々を過ごしております。

当協会は4月から新体制となり、新たな業務がスタートしました。暁を覚えない頭を出勤前にはシャキッとさせ、集中して業務に打ち込めることができるよう夜更かしは控えたいものです。

さて、本文中にも掲載しましたが、豚流行性下痢 (PED) が全国で猛威をふるっており、4月に入り県内でも発生が確認されました。日常管理での洗浄・消毒の徹底、部外者の農場への立ち入り制限など、自らの手で大切な豚を守りましょう。

(谷川 記)